No.86
2020.2月1日発行

紫芳会だより　～輝く先輩達～

高校時代に打ち込んだことが糧となる

弁護士　**加納　力 氏（高校39期）**

1987年3月　立川高校卒業
1991年3月　中央大学法学部法律学科卒業
1994年4月　司法修習生
1996年4月　弁護士登録（現在に至る）

私が立高に入学したのは、今では余り評判のよくないグループ選抜制度が導入された2～3年後のことで、立高についても学区内で一番偏差値の高い都立高という程度の認識でしかありませんでした。1年次には中学の延長でサッカー部に入部したものの、試合に出ることさえ夢のまた夢といったレベルでくすぶっていましたが、2年次にとんでもない立高の試練に晒されることになりました。当時の立高生にとって大学受験に次ぐ大イベントだった、立高祭のキャンバスチーフに抜擢されてしまったのです。

キャンバス（1985年EDチーム）

今ではキャンバスは作られていないのでピンと来ないかも知れませんが、9月末の体育祭に向けて4か月かけて一から作り上げる巨大なオブジェで、各チーム1基ずつ、計4基のキャンバスがグラウンドに聳えるのです。何しろ1年次にはサッカー部にいたものですから、キャンバスに関わったのはほんの少しだけで、どうやって作るのかも分かりません。しかしそうは言っても立高祭のシンボルと言ってもいいキャンバスのチーフですから、言い訳は通用しません。もうサッカーどころではなく、前年のキャンバスチーフだった3年生に教わりながらひたすら設計図を引き、鋸と金槌を振るい、新聞紙を貼り、作業のための動員をかけ、作業時間確保のために先生方と交渉し、勉強する間も寝る間も惜しんでキャンバス製作に打ち込みました。今から考えても、恐ろしいほど集中した4か月でした。サッカーでグラウンドを走り回っていた頃よりよっぽど体重も減ったほどです。
立高祭が終わった後は、一時放心状態になるほどでしたが、サッカー部には戻らず、遅れた勉強を取り戻すべく少しは机に向かったりしつつ、学校内の有志で合唱をしたりしていました（これが高じて、大学でも男声合唱団で活動しました）。

⬅ 有志男声合唱（1986年文化祭にて）

弁護士になろうという思いは立高に入学した頃にはすでに胸の中にあり、大学卒業後の猛勉強でどうにか司法試験に合格しましたが、受験勉強の集中力は、キャンバス製作の4か月の間に培われたものと信じています。
私が弁護士としてのライフワークとしているのは、立川からもほど近い、横田基地の騒音公害問題です。先日まで弁護団事務局長として20名を超える弁護団の活動の取り仕切りをしていましたが、ここでも立高時代の経験が役立っていることは言うまでもありません。

横田基地公害訴訟 原告団とともに

高校生の頃には先も見えずただがむしゃらに打ち込んでいたことが、後で役に立つことはいくらでもあると思います。現役立高生の皆さんにも、今しかできないことに徹底的にチャレンジしてもらいたいと思います。必ずや自分自身の糧になるはずです。